

Title	佛蘭西に於ける地學研究室瞥見(一)
Author(s)	寺田, 貞次
Citation	地球 (1927), 7(2): 149-154
Issue Date	1927-02-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/183225
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

がチエンパリンの記載は此の如く甚だ簡明である。(未完)

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見 (一)

寺 田 貞 次

ルーブル博物館からセーヌ河畔に出ると、河岸に沿ふて限りなく古本店が並んで居る。初めて巴里に來た自分には頗る興味を引いた。倫敦でもエザンバラでも伯林でもライプツヒでも何處に行つても古本店は澤山ある。然し何れも書店の一部が古本部をなして居るか、小さい屋臺式の古本車か路傍に出て居るかであるが、此處のは全く異つて河畔の岸壁上に小さい(長さ三尺幅二尺深さ七八寸と思はる)蓋附の本函を備へて、恰も帆立貝の様に蓋を開けて、好奇者の足をよめて居る。傍の垂樹の蔭には黴くちやの汚ない爺さん婆さんが番をして居る。此の式の本店がセーヌの兩岸に沿ふく、限りなく並んで居る。エザンバラで稍これに似た古本店を観たことが

あるが、勿論一二軒で、こんな大規模のは初めてである。悠然と蓋を開けて日向ぼっこをやつて居るのもあれば、錠前堅く閉して居るものもある。夜も此の儘にして置けらしい。セーヌ河畔の古本屋は神田(東京)の古本店と同様、巴里の名物であらう、黴くちやの番人と此の古本函の景色は、巴里の繪葉書中にも納めてあるのを觀ると、確に一種の名物に相違ない片ツ端から觀てまはる。昔は随分掘出ものも出來たと申しますが、今は餘りよい本も無さうである。相變らず文學もの歴史もの許で、地學に關するものは稀である。偶々發見したかと思ふと丁度マイヤーの百科全書が何處の店頭にも出て居る様に Elisee Reclus の Universal Geographie である、然

Malte-Brun の *Géographie Universelle* を発見した時は一寸嬉しかつた。佛蘭西に於ける地理學の元祖の如く印象して居た自分には確かに愉快であつた。巴里に來て偶然此の古本屋で御眼にかゝつたのを奇と思つた。此の著も其後注意するに諸方の古本店に少からず發見する事が出来た。六冊本もあれば十二冊本もある。中には E. Couteau の再版に係る八冊本もあつた。此の本には巻頭に Brun の肖像を掲げ、略傳をも記して居た。Malte-Brun は M. l'abbé Conrad Brun とも書き、一七七五年八月十二日に Jurland に生じ Copenhagen 大學に學び、後巴里に出て、地學に關する者多く、一八〇八年には *Annales des Voyages, de la Géographie et de l'Histoire* を一八一〇年(一) *Précis de la Géographie Universelle* を一八二六年には同書の第六卷を出し、一八二一年には *Société de Géographie* を建設した等と讀まれた。

先づ古本屋で佛蘭西地學の兩先驅者に接し、愈々佛蘭西に於ける地理學の現況を視察すべく、巴里大學に向ひます。然し巴里大學教授 E. de Martonne 氏が其著 *Geography in France* (American geographical Society, 1924) に云はれて居ます様に、佛蘭西に於ける地學の發達は丁度英吉利に於ける地理學が、倫敦地學協會に負ふ處大であると同様、巴里に於ける地學協會 *Société de Géographie* の設立が其根基をなして居ます。此の地學協會を創設したのは今古本屋で御眼にかゝつた Malte-Brun で、實に一八二一年の事でありました。勿論最初には單に科學者の一會合たるに過ぎなかつたの

でありましたが、會員には Malte-Brun の様な地學の大家があり、*Précis de Géographie Universelle* (8 vols, 1810—1838) の名著を出すあり、又歴史地理の研究者として知らる、Barbié du Bocage や Walckenaer 氏等があり、René Caillié の阿弗利加 Timbuktu の探險、Ponreau, Lamy の Sahara の探險の如く、各種探險事業を援助したり、或は講演に、或は出版に地理の進歩を促かしたのであります。

此の *Société de Géographie* はもう St-Germain 通一八四番に在りましたが、今は其の目前に *Société de Géographie* (Fondée en 1821) と刻した標碑を残して、其處から程隔つたセーム河西側の Avenue d'Éléna 十番に移轉しました。丁度 Guimet 博物館の筋目に當つて居ます。以前の建物に比するに堂々たる構たるに驚かされます。堂々たるも道理、此處はもと大衆翁の近親たる Prince Roland Bonaparte の邸宅であつたのを、其の地學協會の President であつた關係上、後後建物連に藏書家具を擧げて協會に寄贈されたのであります。一日大使館の紹介を得て、訪問しますと、心よく案内され協會内を縦覽することが出来ました。倫敦地學協會の田舎屋式たる、伯林地學協會の古風なことに反し、如何にも立派綺麗な大理石の階段を登ると、二階全部が協會に充てられて居る。廣大な中廊を以て室は左右兩側に別れて居り、右側は應接室並に食堂、左側は書齋であります。應接室には金色燦然たる家具の他 S. B. Garnier の筆(一八〇八年)に成るナポレオンの地圖を案じて居る畫像が廣大な壁面に飾かれて居り、

食堂にも、同じくナポレオン進軍の大戦争畫が書かれて居り今は協會用として一四九七年、一五九九年製 (Amsterdam) の古地球儀や、十八世紀時代の天體儀などが飾られて居ました。左側の書齋は中庭を圍んで廻廊式に數室あります。何れも協會の圖書室として、各室共周壁は全部天井に達する迄悉く書棚で充たされて居り、オークの組床に高い天井、堂々たる大圖書館の趣があります。入口の室は細長い室で中央には長形の卓子を置き、各國の地學雜誌を並べ、一隅には事務用机を置いて居る。カタログも此室に備へてありました。其他の室には Prince Bonaparte の蒐集された藏書が其儘に保存され、一室の爐上には Prince Bonaparte の肖像畫をかがげて居ました。係員は Bonaparte の記念として、Prince 出版の *Excursion en Corse* (1891) & *Congrès international des Américanistes* (1890) などを見せてくれ、又日本版の古地圖を示して、説明を求めて居ました。佐藤政義の新聞輿地今圖で、文久辛酉仲冬、佐藤政義、文久元辛酉冬十一月庄内、と記されてありました。協會の事業は何處の同様に、機關雜誌として一九〇〇年以來 *La Géographie* を出し、各地に設置されて居る地學協會と共に地學の發達上に貢獻して居ます。

愈々之れから巴里大學を觀察しました。上述の様に佛蘭西地學發達には地學協會が直接間接に之を助長したことは勿論であります。又學としての研究、單に地學協會許でなく、矢張り早く發達しました。數理上の智識に基く地圖の研究、並に

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見

歴史的の研究が其の基礎となつて近時の地理學を養成したので此の方面に於き^ては、夫の Paul Vidal de la Blache を初め、Marcel Dubois, Lucien G. Hois, Charles de La Roncière 氏等が其の重きをなして居ます。

尙之と並んで近時の地學發達上忘れる事の出来ないのは、諸方の古本屋で御眼にかゝる Elisée Reclus であります。氏は一八六九年に *Général Géographie* の二冊を出し、後數年を費して遂に *Géographie Universelle* 十九卷を大成しました。吾人の諸方で御眼にかゝるのは此の本で、氏は此の他に尙 *La Terre* (I. Les Continents, II. L'Océan) 等其著少くありません。此の地理書は現今から申せば、所謂記述的地理に屬するものではありませんけれども、此の大著は佛國に於ける近世地學を助長した事は確かです。Vidal da la Blache と並んで、近世地學の直接基礎として宜しう。然し近時地理學の發達上、密接の貢獻をしたのは、矢張り Vidal de la Blache 氏で、氏は數理及び史的方面からして地學を研究し、Sorbonne 大學の教授として學生を指導し、各種の名著を發表した。一八九一年版の *Marco Polo & Histoire et Géographie, Atlas Général* (Librairie Armand Colin) 等は其例で、地圖の如きは日本にも多く來て居るもので佛蘭西でも今尙廣く用ひられて居ます。かくて巴里大學の地理部は歴史部の一部として、近世地學の基礎となつた。佛蘭西に於ける大學が巴里以外諸方に例へば Lille, Lyons, Nancy, Bordeaux, Montpellier, Strasbourg 並に Grenoble 等に設立され

る様になつては、V. de la Blache に依つて教養された地學家が此等大學の地學を擔負する様になり、近世地理學は佛國各地に於て研究される様になつたのであります。

巴里の大學は實に此の地學發達根本の研究室で、以前は文學部中に歴史部や考古學部と並置されて居り Physical Geography の方面は別に Science 科の方に設置されて居ました然し近時は此等諸部から獨立して、別に研究室も出來大に面目を一新する様になり、巴里大學に於て許でなく地方の諸大學でも、地理の研究室を備へて研究する様になつて居ます。セーヌの古本屋に興味を引いた自分は、愈々巴里大學の研究室を訪ねました。此の研究室は一九一二年に Marquise Arconati-Visconti 氏の寄金に依つて新築の運に至つたもので、一九一四年から工を起し、二四年に出來上りました。巴里大學本館の東南數町の處・Rue Saint Jacques 5. に在ります本館の東側の街を南する數町、古い民家の一角新しい研究館を發見する事が出來ます。外觀立派と云ふ程ではありませぬけれども、赤煉瓦の近世風の建物で、西南に面して玄關を備く、玄關の上部には

Institut de Géographie, Université de Paris,

L'Institut de Géographie, uété fondé par la

Marquise Arconati Visconti en souvenir de son père

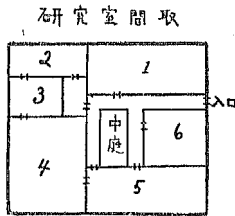
Alphonse peyrat homme de lettres sénateur M D C

C C XII—M D C C C X C.

の語が記されてゐる。

玄關の右側は接室、續いて事務員居室、左側は階段になつて居る。玄關の後部及び階段の後部は、學生の散步室に大講堂をなし、散步室は硝子張の天井、陶製の床、天井がひくいで少し鬱陶しいけれども廣大で綺麗、講堂は一段をひくめて階段式に造り、正面下に黒板、教壇、地圖掛を裝置し幻燈器をも備へて居る。あへて華美ではないけれども、地理の講義には不便なく、新しいので氣持もよい。傍には教官の控室、便所迄備いつて居る。階上は全部研究室で地理學の他に Ethnologie 並に Physique de Globe の Institute をも有して居る。新築未だ完備しない様子であつたけれども、地理の Institute は既に開かれて居ました。地理の研究室は其二階で中庭を圍んで廊下を設け、六室に別れて居ます。入口の直ぐ右側(第一室)は廣大な室で圖書室、室内には閱覽用卓子を數脚並べ、周壁は全部書棚、天井に達する迄設置、一般地理各國地理、雜誌と云ふ風に部門を分けて、蒐集してあり書棚の下部は其部門に關する地圖を蒐集して居る。例へば上棚が經濟地理部なれば下部は經濟地理關係地圖を藏する云ふ類であります。目下尙完備の域に達して居ない。書棚には未だ空きも多く見受け、カタログも尙作製中でありました。次の室(第二室)は小さい室ながら街路に面して明るく、氣持のよい室で Institute の主目 Edm unal de Martonne 教授の御室です、綺麗な机など備へてある處、何處の教授室もかへりはない。唯、歐洲の通信の如く、寫真に繪畫だのゴダ―師になつてゐない點は余の意に適して氣持がよかつた。折

よく教授に面會の榮を得、懇切な案内を受けました。次の室(第三室)も餘り廣くない室で、Relief Mapの蒐集室です。室の中央に低い臺を備へ、佛蘭西國內の地形圖を基礎として作製した Relief Mapを置き、周壁に棚を設けて尙多數に保存してあります。何れも佛國內各地に屬するものとの説明でありました。地理の研究には Relief Mapの必要な事は申す迄もありませぬが、此の位多數に設備して居る處は未だ他に見たことはありませぬ。次の室第四室は學生の研究室、並に演習室で、室は可なりの廣さを有し、中央にオーク製の長い卓子を二列に長く並べ、一方の壁に黑板上に一枚白色の Relief Map (Environns de Tou) を、周壁には各種の Relief Map や、世界各人種の寫眞、例へば Dakota 土人 Australia 土人等を掲げ、側壁には書棚を備へ、地學上の代表的著書、雜誌並に地圖を蒐集して居ます。獨、英、佛、米を通じて代表的の名著は網羅されて居る様に見受けた、矢張り獨逸書が最も多きを示して居ました



次の室(第五室)も實習室で室内には卓子を置き周壁には標本箱、書棚を設け、地形學上の標本、岩石各種教授用地圖類を保存して居りアルプスのパノラマ寫眞なども掲げてありました。次の室(第六室)

は入口の左側の室で、地圖室をなして居ます、地圖蒐集の他製圖上の設備をも有し、室の中央には細長き卓子を二列に並

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見

べ、周圍には何處の研究室のと同様に、板蓋を備ふる地圖箱を多數並べ、佛國を初め、各國別に蒐集して居る。佛國內の地圖、並に歐洲各國圖は各三面を占め、他は大體別に一箱づつ、就中加奈陀圖はよく蒐集されて居り、日本の地圖などは勿論極く少數である。マートンヌ教授の説明でした。最後の二函は教授用の圖を納め、多くは教授自身の著にかゝるものである様に拜見しました。要するに當研究室はさう廣大と云ふ方でもなく、設備も尙完備の域に達しては居ないけれども新しく氣持よくおちついた研究室、佛蘭西の中心地たる巴里大學の地理學研究室として耻ぢざる様に觀察しました、Physique de Globe 並に Ethnologie の研究室は遺憾ながら縦覽の機を得ずなんだ。

教室の主任は前述の Emmanuel de Martonne 教授で、折よく御面會申す事が出来、懇切なる案内を受け、又御講義の聽講をも許可されました。獨逸人の様に肥滿した方ではなく、赤顔に黒味を帯びた頭髪、鬚を貯へ極元氣な風姿に見受けました。講義は General Geography と各論とで、通論の方では地形に關する論究、各論では東洋部を講じて居られました。丁度支那の交通から日本の部を拜聽することが出来興味を引きました。日本部の講義には、日本製の地質圖の他に教授の著にかゝる、日本地圖 (Japon, Carte Physique) を使用して論ぜられて居た。此の圖は Librairie Armand Colin から出版する Collection de Cartes Murales に屬するものであります、教授は Vidal de la Blache の高弟で、

Rennes及Lyon大學の教授を経て、Vidal de la Blacheの後を繼で、當教室の主任となられた方で、從來の historical geography の因襲を脱して、Physical の方面にも重きを置く様になつた方で、其著には *Traité de Géographie Physique* (1909 二刊 1913 三刊 1920) があり、又新しき *Abrige de Géographie Physique* (1923) を著し、Vidal de la Blache 著の human geography を出版されて居ます。氏に並んで此の教室には Lucien Gallois 教授が居られます。氏は前任主任 Vidal de la Blache 教授を補佐して地學の發達に貢献し

た人で、今は當教室の首席教授として、主に地圖學の方面を擔當して居られ、其の著に係る地圖も少くありません。幸當教授にも御出合。ある事が出来ましたが、六ヶ月前後と思はれる白髮の老紳士で獨逸風によく太つた、やさしい風姿、地圖の研究室で何やら地圖をひきつけて研究して居られた。以上兩教授の他に人文地理の方面に Augustin Bernard 教授があります。Algiers 大學から來て、Colonial Geography の Marcel Dubois 教授の後を繼ぎ Algeria, Morocco の人文的研究を以て知られて居ます。(未完)

ベルフォール (Belfort) (質疑應答)

この頃の文檢には歴史上の有名な地名がよく出ます、これなども其一つで受験者は西洋史や東洋史の一通の概念を持つ必要があります、この市は一八七〇—一八七一年の普佛戰爭に際し三ヶ月以上も頑強に固守した所ベルダンとか支那の唯陽城とかいふ類の要塞城で巴里が落城しても猶二週間は孤影卓然として祖國の爲めに堅守した所一八七一年二月十六日開城、二月二十六日ベルサイユ條約を結んで近世史上にビスマルクの名を大ならしめたので思ひ出のふかい町である。ベルフォールテリトリーは二三五平方哩、ベルサイユ條約でエルサスを獨逸に割けたけれども、ベルフォールだけは佛國領として残されたもので Vosges と Jura との間のデブレツシヨンに位する要地で、バーゼルの北西三十五哩にある、今度の大戦でエルサスは佛國に復歸し Haut-Rhin 縣となつたがベルフォールはやはり舊の通りテリトリーで残つてゐる穀物がよく出来る、機械工業醸造業も榮えてゐる、ローンラインを連れる Savoureuse 川の運河と巴里バーゼル線、リオン、ストラスブルク線の交點で、軍事上にも交通上にも重要な地點で、勿論國境要塞としては佛國東方の一等地點であることは昔の通りである。(藤田)